

筑波大学 社会工学系 腰塚研究室

腰塚研究室は筑波大学社会工学系に所属し、都市計測研究室とも呼ばれております。後での説明の都合上、まず筑波大学の研究・教育組織について少しお話ししましょう。

筑波大学では従来の大学とは異なり、研究および教育という2つの機能を分離しています。前者の組織としては「学系」が置かれ、後者では各大学院および「学群・学類」（学部段階での教育組織）が設けられています。ここでは従来の講座制を廃しているため、教授一助教授一助手というタテ割りがありません。また、大学院の方も他大学とは異なり、2年制の修士課程と5年一貫（医学研究科は4年）の博士課程とがそれぞれ別の組織として並列的に設けられています。（筑波大の大学院便覧では、前者は主として高度の職業人養成あるいは社会人の再教育を目的とし、後者は主に研究者養成を目的とする、と述べられています）

ここで、これらの組織の中から腰塚先生の関係するものをあげますと、研究組織としては社会工学系に、教育の方では学部レベルでは第3学群社会工学類に、大学院レベルでは博士課程の社会工学研究科、および修士課程の経営政策科学研究科に属しています。したがって、過去研究室のメンバーは主としてこれらの学類および大学院の中から都市解析に興味を持つ学類生、大学院生が集まって構成されてきました。（変わり種として、当研究室で教育学の修士論文を書いた人もいます）

昭和61年度の構成員ですが、腰塚先生の指導の下に社会工学研究科都市・地域計画学専攻5年の大澤義明、同4年の栗田治、同1年の古藤浩という院生が集まっています。（腰塚先生が今秋から1年間渡米するので、今年度は卒論生、修論生は不在で、これまでの最小人数。）また、都市専攻とは異なりますが、社会工学系経営工学専攻の室田一雄先生にも研究指導等をしていただいています。

さて、研究内容ですが、都市の諸側面（施設、交通など）のもつ性質を数理的に解明することを旨として、種々の研究を行なっております。例をあげますと、地理情報の処理に関するもの、施設配置、地理的最適化、メッシュデータの誤差分析、交通網の分析等々、都市についてまさにOR的にアプローチしているわけです。これらの研究は、研究室内で腰塚先生の指導により週1回のペースで行なわれるゼミで各人が成果を発表し、積極的に討論を行なうことにより進められています。

この他、研究室では輪読形式の勉強会も他の研究室の人も入ってさかんに行なわれています。例をあげますと積分幾何学ゼミ（腰塚先生の指導）や組合せ最適化ゼミ（室田先生の指導）等です。

以上のような次第で、研究室は活気にあふれておりまして（少々散らかっておりますが）、また、とても打ち解けた雰囲気になっています。それにメンバー全員ソフトボールのファンでして、人数不足を助っ人によってカバーしつつ他研究室との試合に汗を流したりしています（筑波には空地や球場が多い）。また腰塚先生が大好きなこともあって、お酒を呑むことも多く、先生の奥様の美味しい手料理に加え、夏は屋外でバーベキュー、冬は先生手づくりのチョコ鍋などに皆舌鼓を打っています。これらは、先生の持論、「筑波は巨大な合宿所である」のとおりでありまして、学園都市ならではの楽しみ方もあるものだということがおわかりいただけるかと思います。

以上、腰塚研の概略をお話ししましたが、ご興味をお持ちになった方はどうぞご連絡ください。

〒305 茨城県新治郡桜村天万台1-1-1

筑波大学社会工学系F1036

腰塚研究室 大澤義明、栗田 治

電話 0298 (53) 5590 (直通)